

インターネット
放送による

多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催
後援：武蔵野市教育委員会



2・3月開催予定の講座案内

156回 題名 上手に老いて上手に死のう～元気で長生きピンピンコロリ～

日時 平成29年2月9日(木) 14:30から約1時間
講師 山本 思外里 氏(東京都民間カルチャー事業協会顧問、元読売・日本テレビ文化センター社長)
内容 高齢者のだれもが抱えている「死に方不安」を解消するには、「上手な老い方をすれば上手な死に方が可能になる」という死生学(サナトロジー)の教を学ぶ必要があります。死ぬ間際まで元気に活動し、だれにも迷惑をかけずにコロリとあの世に逝く「ピンピンコロリ(ポックリ死)」は決して幻想ではありません。正しい生活習慣を守って寝たきりになるのを防ぎ、健康で長生きすれば、終末期の病臥期間をほぼ確実に短縮できるのです。

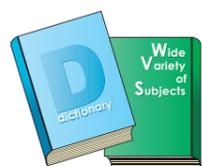


157回 題名 先進諸国の構造変化の中で～所得格差拡大とパナマ文書

日時 平成29年3月9日(木) 14:30から約1時間 **講師** 新飯田 宏 氏(横浜国立大学名誉教授)

- **受講料** 無料(ただし資料代100円)
- **メイン会場** 多摩交流センター 第2会議室(申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。)
- **サテライト会場** 武蔵野市かたらいの道
- **ライブ中継・VOD視聴について**
多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座の視聴(ライブ中継)や過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先: TEL 070-2648-3520(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

東京雑学大学

平成29年3月講義案内

(受講料は会員無料・会員外は3月9日を除き、1回500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第1076回	3月2日(木) 14:00から	民間社会の天と神仏	深谷 克己 氏 (早稲田大学名誉教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1077回 ※	3月9日(木) 14:30から	先進諸国の構造変化の中で ～所得格差拡大とパナマ文書	新飯田 宏 氏 (横浜国立大学名誉教授)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 徒歩3分)
第1078回	3月16日(木) 14:00から	紙芝居の魅力をさぐる	濱中 健 氏 (紙芝居研究者、元東京教育心理研究所長)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1079回	3月23日(木) 14:00から	日本画の技法(仮題)	伊東 正次 氏 (日本画家)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)
第1080回	3月26日(日) 14:00から	田村俊子『彼女の生活』を読む	岩淵 宏子 氏 (城西国際大学客員教授、日本女子大学名誉教授)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩8分)

☆申込みは必要ありません。直接会場へお越しください。
 ※第1077回は、第157回多摩発・遠隔生涯学習講座と共同で実施します。メイン会場は多摩交流センターです。
 [問合せ先] TEL 042-465-3741(浅田) TEL 0422-52-0908(菅原)

会議室利用登録団体の方へ 登録期限更新手続き等のごお願い

会議室利用登録の更新について

多摩交流センター会議室利用登録団体の登録期限は、登録または更新してから3年度目の3月31日までです。登録の更新を希望する場合、所定の書類を提出していただいています。該当する団体には更新のご案内を通知しますので、期日までに必ずご提出ください。

ロッカー・棚の貸出について

会議室利用登録団体貸出しロッカー・棚の利用期限は、毎年3月31日までです。現在利用している団体は期日までにロッカー・棚の荷物を引き上げてください。また、平成29年度の利用を希望する団体は所定の書類を提出していただきます。

貸出団体及びご利用いただくロッカー・棚の場所は、抽選で決定します。

忘れ物・落とし物について

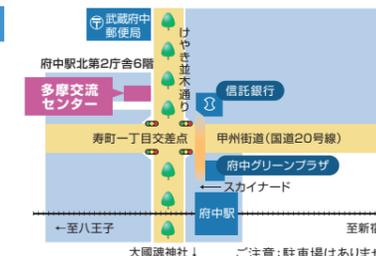
会議室や印刷室等での様々な忘れ物・落とし物をお預かりしています。心当たりのある方は事務室までお問合せください。また、会議室利用後は忘れ物・落とし物がないか、団体のみなさんで必ずご確認ください。

「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階
 TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127
 ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ **多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。**



編集後記

- たくさんのご馳走が食卓を飾る楽しいお正月もあっという間に過ぎ、2月になりました。みなさん、年末年始は、食べ残しを出すことなく、食事を楽しむことができたでしょうか？
- 東京都の調査によると、食品廃棄物量は、事業系と家庭系を合わせて年間197万tにのぼり、そのうち、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆるフードロスは、22～26万tとされています。これは、都民1人あたりにすると約16kg～19kgにもなり、その多さには驚かされます。
- フードロスの削減は、廃棄物の発生抑制のみにとどまらず、生産や流通面においても、温室効果ガス排出削減などの環境負荷低減効果があり、国や東京都をはじめ、様々な主体による取組が行われています。
- 本紙記事(3ページ)で紹介のとおり、昨年12月に国内最大規模の環境展示会“エコプロ2016”が開催されました。当調査会等が事務局を務め、都内の市区町村が参加するオール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」も出展し、参加自治体の個性あふれる環境活動を、パネル展示、ワークショップ、ステ

- ジショーやスタンプラリーなどで、来場者に親しみやすく紹介しました。
- 各ブースでは、再生可能エネルギー創出や地域特性を活かした緑保全の取組のほか、冒頭に触れたフードロス削減の取組などについても、自治体職員が来場者にわかりやすく説明しました。
- 取組事例の一部を紹介すると、小盛りメニューやハーフサイズの導入などで食べ残し削減、食べきりに協力する地域内の飲食店を“もったいない推進店”に認定し、その飲食店を自治体ホームページに掲載して、普及を進めているものや、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、それらを福祉団体、フードバンクなどに寄付する“フードドライブ”活動などが紹介されていました。
- このような展示会に各自治体が出展し、様々な取組を紹介することで、事業の相乗効果は高まり、フードロス削減等の新たな取組が普及していくのではないのでしょうか。
- 今後も、当調査会等が企画運営するオール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により、各市町村の環境施策に役立つよう事業を推進していきたいと思ひます。(M.M)